



RI 第2610地区
井波庄川ロータリークラブ会報

2008-09年度 No.9 9月3日発行

事務局 〒932-0211 富山県砺波市庄川町示野 121 リプロ内

TEL&FAX 0763-82-4318、inashorc@athena.ocn.ne.jp

2008-09年度 会長 小西 勝、幹事 高瀬 顕正

2008-09年度 RI テーマ



「夢をかたちに」

(李東建会長)

① 例 会 記 録「ガバナー公式訪問」

② 特集「ロータリーよ どこへ行く」シリーズ②



国際ロータリー2610 地区高柳功ガバナー公式訪問の記念写真

①第1438回例会

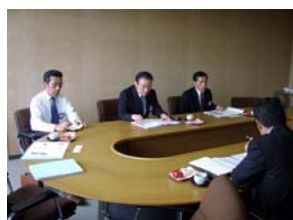
平成20年8月27日(水) 井波文化センター

1. 点鐘 小西会長
2. ソング「奉仕の理想」
3. ゲスト紹介：①高柳功がバナー（富山中 RC）
②池田茂ガバナー補佐(新湊中央 RC)
③藤澤徹地区副幹事(富山中 RC)
④中嶋勝彦氏(東京井波会副会長)



河合会員：中嶋様は、東京在住ですが、井波の家も守るために行き来をしておられます。来年、井波に戻られる予定です。

中嶋氏：水戸出身ですが、家内の祖父が菊野久太郎氏(井波庄川 RC 初代会長)の兄で、縁があります。



午前中の協議会：ガバナーと三役

4. 会長の時間…「八月の最終例会が、ガバナー公式訪問となりました。昨今、朝晩は涼しくなってきました。午前中、ガバナーを囲んで三役と協議しました。普段着のクラブを謳い文句にしていますが、本日の例会には助田さんから立派な花のスタンドを頂きました。ゲストの中嶋様、是非来年はよろしくお願いします。」
5. 幹事報告…「高柳ガバナーようこそ。①藤澤副幹事様より、『更正支援基金箱』を頂きました。麻薬やMPMAやシンナーなどのダメ・ゼッタイ運動のときに使いましょう。」



6. 委員会報告…出席委員会(代理):25名中18名出席(出席免除者8名中5名出席)・・・出席率81.82%

7. ニコニコBOX(助田SAA：本日8名20,000円)

高柳ガバナー：公式訪問のご挨拶。

池田ガバナー補佐：ご挨拶。

藤澤地区副幹事：ご挨拶。

小西会長：ガバナー・補佐・副幹事ようこそ。

高瀬幹事：ガバナーようこそ。

山本会員：ガバナーようこそ。娘の剣道の全中富山大会、残念ながら1回戦敗退でした。応援に感謝。

河合会員：ガバナーようこそ。中嶋様ようこそ、来年はメンバーとして、お待ちしております。

助田SAA：ガバナー、中嶋様ようこそ。

(8月計 59,000円：年度累計 110,000円)

9. ニコニコBOX-DX

助田会員：フラワースタンド寄贈されました。



卓話「夢をかたちに」 ―ロータリアンよ
「心にゆとりを、人々に愛を」

国際ロータリー第 2610 地区
高柳 功ガバナー(富山中 RC)



【ガバナーの抄録より】ロータリーは 2005 年に創立百周年を祝い、次の 100 年に向かって力強い歩みを進めています。100 年にわたってロータリーの発展を支えてきたのは、会員のロータリーへの揺るぎない信頼と「奉仕の理想」という信念です。

「ロータリーの綱領」「四つのテスト」「職業宣言」が会員の信頼を得て信念となる源です。私たちは次の 100 年のためにロータリーの輝かしい歴史を継承し、後の世に残す責任があります。

韓国から初めての李東建 RI 会長は、幼くして死亡する子供たちの夢を見果てぬままに終わらせるのではなく、「夢をかたちに」しようという RI テーマを発表されました。

私は RI 会長テーマに加えて、ロータリアンに「心にゆとりを、人々に愛を！」と訴えたいと思います。その理由は、うつ病と自殺の増加と、その背景にある人心の荒廃です。

市場経済原理主義の行きすぎによって、ゆとりと寛容の精神が失われ、企業倫理が荒廃しています。せめてロータリアンは一歩立ち止まってゆとりを取戻し、自らの足許を見直して下さい。心にゆとりをもち、人々に愛をもって接することで、うつも自殺も減少し、また企業倫理の荒廃を防ぐことが可能になります。これが私の願いです。

ロータリーの本質は職業奉仕にあります。ロータリアンはより高い道德水準、倫理基準で企業活動を実践していくことを、今こそ求められています。私

は以下の 5 項を地区の重点目標にして挙げています。皆さんも努力して下さい。

1. 職業奉仕を見直そう→職業倫理の再確認
2. 環境問題に取り組もう
3. 世界平和を推進しよう→国際交流の推進
4. ポリオ撲滅のために努力しよう→一人
2,500 円(年間)×3 年
5. 会員増強・拡大に努力しよう→最低各クラブ純増 1 名



【編集後記】

ガバナー公式訪問で、午前中の協議会で、高柳ガバナーから「先生のフッ素によるむし歯予防活動で、ロータリーに何をしてほしいですか」と尋ねられ、余り上手く具体例を挙げられませんでした。しかし、月信に原稿を書いてくださいや、卓話を広げればいいですね、とも言われ、こちらの思いを汲んで下さいましたことを大変嬉しく思いました。

嬉しくなって、先の地区協で紹介されたニコルさんの本「マザー・ツリー」の講評を申し上げたところ、私はまだ読んでいないということでした。この本の中にある考えが、河合さんの活動の原点ですと、「南砺の山々を守る会」と我がクラブの活動を強調しました。

ところで、前号より、木村英典ロータリー情報委員長に、「ロータリーよ どこへ行く」と題して寄稿していただいております。編集後記が最後に入ると、折角のいい文章が尻切れトンボで読みにくくなります。今号より文末に添付様式で付けさせていただきます。後で、まとめて編集しやすくなれば良いと思います。(山本武夫)

特集「ロータリーよ どこへ行く」

ロータリー情報委員長 木村英典

シリーズⅡ『どうしても よくないこと』

ここに、1冊の本がある。

新書判 147頁、昭和52年改訂10版の発行だから、表紙もすり切れ、紙も変色してしまっていて、おそらく今では廃版になっているに違いない。

書名は『ロータリー入門書』 著者はガバナーの経験を持つ前原勝樹氏で、34年前砺波ロータリークラブに入会した時、当クラブの初代幹事をつとめられ、1982年不慮の事故で亡くなられた庄川温泉の先代社長小西順三氏から贈られたものである。

今では信じられないことだが、当時は新会員のための「同化」とか「教育」ということが、公然と言われていたのである。

幸か不幸かそのような教育を受けたことは一度もなかったが、新会員は皆、人それぞれ方法は違っても、ロータリーを識ろうとする気持ちは持っていたように思う。

そんなことから薦められて読んだ、この『ロータリー入門書』の中に、こんな一節がある。

「ロータリークラブは、奉仕をする団体ではなく、奉仕をする人々の集まりである」

この著書は、この一文を書きたいためにこの本を書き上げたのではないかとさえ思っている。そして、自分がこのフレーズの意味を理解できたのは、入会して10年あとのことであった。

「ロータリークラブは奉仕活動をしているのに、奉仕団体ではないという。財団や奨学会に寄付しているのに、寄付団体でない、という。ロータリーは宗教ではないというが、綱領やらテストやら、難しいことを言うところは、どこか宗教に似たところもなくはない。では一体ロータリークラブとは何なんだ。」

これは、ガバナー補佐クラブ事前訪問の池田茂ガバナー補佐の卓話の中の一節である。識ったかぶりではなく、自分の思いを素直に述べられた氏の実直さに皆、好印象を受けた。

この矛盾を解き明かすヒントが、この入門書の一節に中に潜んでいると思われる。

ロータリーを構成する基本的主体が、ロータリアン「個人」から「クラブ」組織へと変遷して出来た副産物のようなものだ。員数集めだけの会員増強は、ロータリアン個人の人格や個性は軽視され、数だけですべてが評価される風潮をつくり上げた。その結果、個人としての自覚と責任感は薄れて、みんなで渡れば怖くない、みんなで行こうよどこまでも、と組織で行う活動が主流になって行った。悪いことではない。

決して安くもない会費を払って入会している自分達の会が、一体どんな会なのか、よくわからないでは笑い話にもならない。これだけは、何としてもはっきりさせておきたいものである。